

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0272600412
法人名	倉石ハーネス株式会社 風間浦事業所
事業所名	グループホームいこくま荘
所在地	青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目17-2 (電話)0175-32-6770
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(平成20年9月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 3,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(平成20年9月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 79.6 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	風間浦診療所
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員が理念の周知及び共有化を図れるよう取り組んでおり、理解している。日々の生活の中で、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いを大切に愛情豊かなケアを実践している。
 評価の活用方法やねらい等を全職員が理解できるよう取り組んでおり、自己評価は全職員の意見を取り入れ作成している。外部評価についても職員会議等で話し合い、評価や改善に向けた取り組みを行うなど活用方法を理解している。
 家族会を発足し、代表者が推進会議に出席するなど意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努め、出された要望や意見を職員会議等で話し合い日々のケアに反映している。
 環境、接遇、広報、リスクの4委員会を職員で組織し、職員全体で前向きにまた、積極的によりよいケアを目指している。

【特に改善が求められる点】

前年の外部研修参加状況を基に、研修主催者に開催日程等を問い合わせするなどし、年間研修計画を作成することに期待したい。
 やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残すために、マニュアルを作成することに期待したい。
 やむを得ず施設する場合に備えて、施設する場合の理由を明確にし、家族から同意を得ることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を受け、改善課題に挙げられた項目については、職員会議等で話し合い、全職員が改善に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は責任者、ユニット管理者の実施のみであったが、今回は全職員で実施しており、より良いホーム作りに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>各種団体や地域の個人の方を、メンバーとして増員するなど、様々な意見を聞けるようにし、行事の運営や日々の生活の支援が円滑にできるような協力体制を築いている。</p> <p>また、改善策等についても委員から意見を引き出し、次年度の事業計画に盛り込んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月発行するお便りで、利用者の日々の暮らしぶりを報告しているほか、出納帳のコピーに領収書を添えて報告している。また定期的に健康状態の報告を行っており、緊急時には電話等で報告している。職員の異動等については、その都度報告している。</p> <p>家族会が発足され、推進会議に代表者が出席するなど、意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努め、出された要望や意見を職員会議等で話し合い日々のケアに反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中学生の体験学習や、夏休みを利用した大学生のボランティアなど、積極的に受け入れており、体験学習終了後も地域の中学生との交流を図っているほか、保育園の訪問など定期的な交流を行っている。</p> <p>また、近隣の方が季節の野菜などを持って来たり、イモ煮会や草取りなどの行事をお知らせすることで、気軽に立ち寄れる機会作りを積極的に行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>「やわらかな空間の中で一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます。」を基に、職員を育成しながら必要に応じて変更するなど、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>朝の申し送りや会議で話すなど、全職員が理念の周知及び共有化を図れるように取り組んでおり、理解している。日々の生活の中で、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いを大切に、愛情豊かなケアを実践している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>事前訪問や聞き取りにより、利用者及び家族の希望や要望を十分に確認し、信頼関係を形成してからサービス開始が出来るよう、段階的な利用支援を行っている。</p> <p>日々利用者の視点に立ち、一緒に共感することで利用者を理解するよう努めている。畑作業、家事、調理、裁縫などの作業を行う場合は、個々の力量や好みを把握した上で、声掛けしながら一緒に作業している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者一人ひとりの思いを大切にし、個々の力量や意向を日々の状況や会話などから把握している。また、必要に応じて過去の生活歴や家族等からの情報収集を行い、把握するよう努めている。</p> <p>利用者の日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取り、また家族からは面会時などに意向や意見を聞き介護計画を作成している。定期的なカンファレンスやケア会議を行い、担当者のみではなく、全職員からの意見や気づきを参考にし、利用者本位の介護計画を作成している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の話しに耳を傾け、意向や傾向を把握し、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。また、身体状況や天候に留意し、その日その時にあった柔軟な対応を行っている。</p> <p>利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、施設内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など本人の希望に沿って自由に日常的に外出できる環境を整えている。また、個々の状態に合わせ、利用者の希望も聞きながら一泊旅行や日帰り旅行なども実施している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やわらかな空間の中で一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます。」という基本的な理念を基に、職員を育成しながら、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや会議で話すなど、全職員が理念の周知及び共有化を図れるように取り組んでおり、理解している。日々の生活の中で、利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いを大切に愛情豊かなケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	中学生の体験学習や、夏休みを利用した大学生のボランティアなど、積極的に受け入れており、体験学習が終了した後も地域の中学生との交流を図っているほか、保育園の訪問など、定期的な交流を行っている。また、近隣の方が季節の野菜などを持って来たり、イモ煮会や草取りなどの行事をお知らせすることで、気軽に立ち寄れる機会作りを積極的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の活用方法やねらい等を全職員が理解できるよう取り組んでおり、自己評価は全職員の意見を取り入れ作成している。外部評価についても職員会議等で話し合い、評価や改善に向けた取り組みを行うなど活用方法を理解している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、各種団体や地域の方をメンバーとするなど、様々な意見を聞けるようにし、行事の運営や日々の生活の支援が円滑にできるような協力体制を築いている。また、改善策等について、委員から意見を引き出し、次年度の事業計画に盛り込むなど、サービスの向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報紙を2ヶ月に1回発行しており、村広報と一緒に配布することで、施設への理解や周知を図っている。また、推進委員として行政担当課長が参加しているほか、無断外出時等の緊急事態に備えて、協力体制が整っているなど、日常的に相談や意見を聞く機会を設けて連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修参加者が復命書を作成し、また会議などで報告会を行うことで全職員への周知を図っている。管理者は、必要に応じて関係機関と連携をとり、利用者や家族へ情報提供を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係する研修会に参加するほか、職員でリスクマネジメント委員会が設置され理解を深める取り組みを行っている。管理者は、職員の日々のケア提供に留意し、声かけ等を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待を発見した場合の対応方法、報告の流れ等についての取り決めを作成しており、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に、事業所の方針等について説明し、また認知症についての説明も交え、日々の生活についての情報および意見交換を行っている。契約改定時や退居時には、利用者や家族に十分に説明を行い、同意を得ている。また、退居先の施設の紹介や説明などの情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日々の暮らしぶり等を毎月発行するお便りで報告している。金銭管理について、出納帳のコピーに領収書を添えて報告している。また健康状態の報告を定期的に行い、緊急時には電話等で報告している。職員の異動等については、その都度、報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足され、推進会議に代表者が出席している。内部・外部の苦情受付窓口を明示しているほか、玄関にアンケート用紙を設置するなど意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。出された要望や意見を職員会議等で話し合い、日々のケアに反映している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を十分に理解し、日常的に利用者及び職員がユニット間を行き来し、顔なじみの関係作りを行っている。職員の異動を行う際は、利用者や家族へ十分な説明を行い、また全職員が一人ひとりを把握していることで、スムーズな引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修会に参加できるよう配慮している。また、内部で4つの委員会を設け、職員自身の学ぶべきことや日々のケアについての課題等を見つけ、積極的に交流会や研修会に参加し、内部研修で全職員へ周知するなどの取り組みを行っている。しかし、外部研修における年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	前年の外部研修参加状況を基に、研修主催者に開催日程等を問い合わせするなどし、年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所や近隣事業所と合同で行事を行ったり、ドライブの際に立ち寄るなどの交流を行っている。また、事業所内の各種委員会で、他事業所の訪問勉強会を開催するなどし、日々のサービスの向上に向けた課題検討会を行うなど、職員育成へ繋げる取り組みも行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や聞き取りにより、利用者及び家族の希望や要望を十分に確認し、安心して馴染みの関係を形成してから利用が出来るよう、段階的な利用支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々利用者の視点に立ち、一緒に共感することで利用者を理解するよう努めている。畑作業、家事、調理、裁縫などの作業を行う場合は、個々の力量や好みを把握した上で、声掛けしながら一緒に作業している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを大切に、個々の力量や意向を日々の状況や会話などから把握している。また、必要に応じて過去の生活歴や家族等からの情報収集を行い把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取り、また家族からは面会時などに意向や意見を聞き介護計画を作成している。定期的なカンファレンスやケア会議を行い、担当者のみではなく、全職員からの意見や気づきを参考にし利用者本位の介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎に見直しが行われ、状況が急変した場合はその都度、見直しを行っている。日々の観察や記録のほか、家族の面会時や利用者との日常の会話の中から意向等を聞き取るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共有空間を利用したデイサービスを実施し、現在3名の利用者がいる。今後は地域の相談所的役割や機能をもった事業に取り組んでいく予定である。また、利用者や家族の希望に応じ、買い物・外泊などの外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医への受診継続を支援している。村内に協力医療機関を確保し、体調や心配ごとがある際は、いつでも相談できる体制が整っており、受診結果等は利用者や家族と共有している。また家族を交えた医療機関との情報交換も行われている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にし、家族、医師、看護師、ケアマネジャー、担当者で話しあい意志統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助時は、さりげなく声がけを行っており利用者の羞恥心に配慮している。また、愛称等で呼びかけず、適切な対応が行われており、居室への入室には利用者の了承を得るなど、プライバシーに十分配慮している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人台帳は職員の事務室の書庫に保管されている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の話しに耳を傾け、意向や傾向を把握し、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。また、身体状況や天候に留意し、臨機応変に柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的なメニューは調理員が作成し、利用者の好き嫌いに配慮されている。また、職員も一緒に食事を摂り会話を楽しみながらさりげなく食べこぼしのサポートを行っているほか、食事の準備や後片付け時には利用者の力量に応じ一緒に行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に声掛けを行うとともに、時間帯や曜日を設けず、本人の希望に沿って入浴を行っている。入浴に対する羞恥心や負担感に配慮されており、入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いすることなく時間をずらして声掛けするなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や家族からの生活歴等の情報収集により本人の希望や役割を見つけ出し一人ひとりの状況を把握した上で支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、施設内の畑作業、庭いじりや草取り、散歩など本人の希望に沿って自由に日常的に外出できる環境を整えている。また、個々の状態に合わせ、利用者の希望も聞きながら一泊旅行や日帰り旅行なども実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、絶対に身体拘束をしないという考えで日々のケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合などの同意書を得ているが、マニュアルの作成までには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残すために、マニュアルを作成することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室等利用者が日常的に出入りする場所を施錠しておらず、自由に散歩や畑作業など外出できるようにしているほか、チャイムにより玄関の出入りを把握しており、無断外出時に備え近隣や公共施設にちらしを配布し、協力連絡体制作りを行っているが、やむを得ず施錠する場合に家族から同意を得るまでに至っていない。	○	やむを得ず施錠する場合に備えて、施錠する場合の理由を明確にし、家族から同意を得ることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応表及び緊急時連絡表を作成し、昼及び夜間を想定した避難訓練を、利用者と一緒に年2回実施している。また、災害時には地域の消防署等から協力が得られるよう働きかけを行っているほか、非常食や飲料水を入れた「非常持ち出し袋」を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好き嫌いを把握した上で、栄養バランスに配慮した献立となっている。また利用者全員の食事や水分の摂取量を記録している。栄養摂取状況等について本部の栄養士から指導や助言を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・早期発見・対応マニュアルが作成されており、必要に応じて内部委員会において課題検討を行っている。また、看護師資格をもつ職員から助言をうけながら対応している。感染症に関する最新の情報を収集し、利用者や家族のほか、訪問者に対しても周知を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の家具を配し、一部には畳を敷くなど家庭的な雰囲気を保てるよう配慮されている。職員が立てる物音やテレビの音量、室内の明るさは適切である。また、施設内は季節を感じられるように、利用者と職員が作成した作品を飾り付けている。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や家族の面会時に馴染みの物を持ってきてもらうよう積極的に声掛けし、時計やぬいぐるみ、配偶者の写真などを持ち込んでいるほか、利用者の作品を飾るなど、一人ひとりの好みに合わせた居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。